

改革に向けた取組み

1 これまでの改革の成果

H17年6月に策定された「千葉市立高等学校改革基本方針」により、新しい時代に対応する高等学校として、H19年度から、市立千葉高等学校では「進学重視型単位制」を、市立稲毛高等学校では中高一貫教育を開始した。

その後の改革の取組みについて、評価・検証を行い、H26年3月に「千葉市立高等学校改革の評価・検証（最終まとめ）」としてとりまとめ、次のような成果が得られた。

【市立千葉高等学校】

- (1) 進学重視型単位制の導入に伴い、教員の加配が認められ多様な選択科目の開設やSSHなどの特色ある教育が可能となった。
- (2) 「1日7時間授業」や「生徒の学習ニーズに対応した選択教科」の導入が、生徒の学ぶ意欲の向上につながっている。現役生の4年生大学への進学率や国公立大学合格者数は、順調な伸びを示している。
- (3) 理数教育の伝統や成果が生徒へ十分に浸透しており、理系大学に進学を希望する生徒の比率が高く、実際に進学する生徒も多い。
- (4) 文武両道の伝統は引き継がれ、生徒は自覚と自信を持ち、部活動や行事に参加し、主体的に活動を行っている。

【市立稲毛高等学校】

- (1) 「グローバルリーダーを育成する中高一貫教育」「中高6年間の継続的な指導」「先進的な英語教育」は、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。
- (2) 先進的な英語教育と6年間の継続的な指導により、高い英語力とコミュニケーション能力が育成されている。
- (3) 進路実績において、現役生の4年生大学への進学率や国公立大学合格者数は順調な伸びを示している。
- (4) 部活動や学校行事等、6年間のつながりを生かした中高協働の活動が充実しているため、入学前の期待以上に高い満足度が得られている。

2 更なる改革推進の必要性

最終まとめでは、両校とも進学実績が上昇し、保護者等の満足度が高く結果としては良好であった。しかし、より改革を推進するため「千葉市立高等学校改革推進会議」を設置し、両校の存在意義も含め「市立」としてのあり方を検討し、「第2次千葉市立学校教育推進計画に基づく高等学校の改革を推進するための行動計画」（行動計画）をH28年3月に策定した。

H28・29年度では、この行動計画に基づき進捗管理を行い、より特色があり魅力ある「市立」としての高等学校づくりを行うため、次のような取組みを今後進めていくことが求められている。

【両校共通】

○市立千葉高等学校における進学重視型単位制の取組みやSSH事業を軸とした先進的な理数教育の取組み、市立稲毛高等学校・附属中学校におけるグローバルリーダーの育成や中高一貫教育などの取組みが成果を上げている。今後は、より特色や魅力ある、「市内における先進的な理数教育の拠点」を目指すこと及び「グローバルリーダーの育成を継承し中等教育学校への移行」へ向けて検討を行うことで、さらなる成果が期待できる。こうした取組みを通じて、市内小中学校や地域等へ普及させるとともに教員の研修の機会として活用できるようにするなど、積極的な授業公開、地域との連携の強化による行事等への積極的参加などを通して、市立高等学校改革の成果等をアピールしていく必要がある。

【市立千葉高等学校】

- 先進的な理数教育を市内小中学校へ普及・還元させていくため、授業での取組みを他の学校種でも活用できるようにすることや、理数科の教員が授業見学等により研修できるようなセンター的機能を持たせていく必要がある。
- 進学重視型単位制のメリットを生かし、大学入試改革や高校教育改革に対応した、英語教育の充実や総合的な学習の時間による課題解決型学習を取り入れるなど教育課程編成の検討が必要である。

【市立稲毛高等学校】

- 中高一貫教育では、教育課程の特例として前倒し学習が認められているため、高等学校普通科の1・2年次において、内進生と外進生の学習進度の違いが生じている。そのため、中高一貫教育の特性が必ずしも十分に生かし切れているとはいえず、中高一貫教育の効率化や質の向上が求められている。こうしたことを解消するためには、中学校・高等学校を含めた教育課程全体にわたっての見直しが必要となっている。